

NO	種別	種 目	氏 名	所 属	予 選		準決勝		決勝		得 点	備 考
					順 位	記 録	順 位	記 録	順 位	記 録		
1	成 年	100	新井 智之	クレーマー	2	10"54 (-0.6)	3	10"57 (+0.5)	7	10"59 (+0.4)	2	大腿部けいれん
2		400	正川 雄一	日体大4	2	47"44	→		6	47"47	3	
3		1500	横田 真人	慶応大2	6	4'00"04						
4		10000W	児島 大祐	東海大4	→		→		×	DSQ		
5		110H	八幡 賢司	モンローサ	2	14"14 (+2.4)	→		7	14"24 (-0.1)	2	
6		棒高跳	田中 宏昌	モンローサ	×	DNS						
7		槍投	室永 豊文	チームミスノ	→		→		13	63m84	10	教員枠
8	少年A	100	小林 雄一	保善高3	1	10"44 (+3.3)	2	10"58 (+0.7)	優勝	10"35 (+4.1)	8	
9		800	梶田 俊樹	東亜学園高2	2	1'53"24	→		5	1'53"83	4	
10		110H	川内 裕太	堀越高3	2	14"67 (+1.2)	2	14"72 (-0.1)	3	14"57 (±0.0)	6	
11		400	中野 竜	東京高3	7	49"69						自己新
12		400H	中野 竜	東京高3	3	52"49	→		×	DNS		
13		棒高跳	菅原 康平	東京高2	→		→		×	NM		
14		砲丸投	秋本 壮樹	成城高2	→		→		7	15m78	2	自己新
15		ハンマー投	清水 サマン	保善高3	→		→		10	54m18		
16		やり投	山崎 信	東大和高3	→		→		優勝	70m11	8	都高校新・自己新
17	少年B	200	女部田 亮	東京高1	1	22"42(-0.2)	2	22"18(+1.5)	7	22"42(-1.7)	2	
18		110JH	安藤 圭太	第3亀戸中3	×	DNF						ハムストリング付根痛
19		走幅跳	大野 哲平	足立十四中3	14	6m45(+0.9)	→		×			
20	共 通	5000W	荒木 貴寛	東京実業高3	→		→		7	21'27"71	2	自己新
21		走高跳	栗原 龍	堀越高3	7	2m00	→		6	2m00	2	タイ3名
22	4×100R		女部田・新井・笹本・小林		2	40"60	2	40"45	優勝	40"51	8	
1	成年	400	成瀬 美紀	日女体大AC	2	55"00	→		4	55"48	5	
2		10000W	大利 久美	日女体大4	→		→		3	45'46"90	6	
3		100H	一木あずさ	日女体大3	3	14"23(-2.1)	→		7	14"28(-1.0)	2	
4		槍 投	小島 裕子	東京茗友クラブ	→		→		優勝	50m95	8	
5	少女A	400	柳橋 裕里	早稲田実業高2	1	56"43	2	55"72	5	55"89	4	予選・準決勝 自己新
6		1500	渡辺 美保	順天高2	11	4'37"51						
8		三段跳	下山 友里	白梅学園高3	4	12m25 (+1.6)	→		6	12m24 (+1.3)	3	
9	少女B	200	山本 優香	三鷹一中3	1	25"31(-0.7)	1	25"11(+2.1)	3	25"44(+0.8)	6	
10		100H	西野 愛梨	東京高1	2	14"16 (+2.0)	3	14"34 (+0.8)	5	14"47 (-0.6)	4	予選 都ユース新・自己新
	共 通	3000	渡辺 美保	順天高2	×	DNS						
11		走高跳	坂本 絵梨	八王子高2	14	1m63						競技途中膝故障
12		棒高跳	多久 優麗花	文京高2	→		→		8	3m30	1	自己タイ
13		砲丸投	鈴木 梨枝	東京高3	→		→		2	14m12	7	

天 候				
日	天候	最高気温(℃)	最低気温(℃)	湿度(%)
5金	晴	24	20.5	56
6土	晴	23	18	52
7日	曇	21	16.5	56
8月	雨	19	16.5	95
9火	曇	18.5	17	54

種別得点 (男)	成年	7
	少A	28
	少B	2
	共通	12
種別得点 (女)	成女	21
	少A	7
	少B	10
	共通	8
	参加点	10
合 計		105

- 第1日目 10／5金 女・砲丸投(鈴木)が惜しくも2位に甘んじたが男・100m(小林)の優勝でその雪辱を果たし、チームとしていいムードのスタートを切った。
- 第2日目 10／6土 男・やり投での優勝(都高校新)は大いにチームを波に乗せてくれた。反面、故障者発生、コールもれ失格と波乱の一日であった。
- 第3日目 10／7日 寒暖の差の激しいコンディションの中、多数の自己新記録が出され、多くの入賞を果たした。
- 第4日目 10／8月 激しい風雨と厳しい寒さの中、選手はもちろんのこと、サポートの選手からも勝利を目指し一致団結し、大量得点(35点)を獲得した。
- 第5日目 10／9火 大会最終種目、成年少年男子4×100mリレーが優勝！チーム一丸となって得た勝利だった。
- 全体総括 天皇杯3位(105点)、皇后杯2位(56点)、ご声援、有難うございました。